

【南九州税理士会会長賞】

「税について知ろう」

高鍋町立高鍋東中学校

一年 黒木湊音

この夏、参議院選挙が行われた。給付金や増税についての各党の政策に注目が集まり、新勢力が議席数を伸ばし、自民党と公明党が過半数割れを起こして選挙は終わった。連日の選挙のニュースで大人たちが税金が高すぎると言っているのを見て、「税金を下げるのってそんなに難しいの?」と不思議に思つたので、税金の仕組みについて調べてみることにした。

調べてみると人は生きているだけで税金を払わなければならないらしい。例えば、社会人として働き始めると給与から所得税が引かれ、その税率は昇進すればするほど高くなつていく。また、物を買うと消費税がかかる。消費税は税の中で唯一、子どもでも大人でも同じように払う税で、お菓子や文房具といった安いものから車や家といった高い物まで、一律でかかる。高価な物をもらつたときには贈与税がかかり、自分が死ぬ時に家族に遺したい物があれば家族に相続税がかかることになる。

日本は、世界で二番目の重税国なのだそうだ。この他にも酒税やたばこ税、入湯税まで存在する。この事実を知つて、僕は「何と生き辛い国なのだろう。そもそも、どうしてそんなに税金が必要なのだろう。」と思い、調べてみるとした。税金の使い道は沢山あるが、僕たちの生活に直結したものを見ると、街の道路整備や環境整備、年金や医療などの社会保障等がある。これらは全体のほんの一部だが、税金がないと僕達の生活がより生き辛いものになるということは分かつた。

では、なぜ大人は税金が高いと怒るのだろうか。父に聞くと「税金の使い道が見え辛いから。」と答え、母に聞くと「収入に対し、負担が大きいから。」と答えてくれた。この意見を聞いて、僕は税金を減らすのは現実的ではないので、税金の使い道の見える化を図るべきだと考えた。なぜ見える化すると良いと考えたかと言うと「このようなことに税金を使います。」と宣言すると、国民は「これなら僕たちのためになるから税金を払おう。」と考えると思ったからだ。税金が本当に自分たちのために使われているのかと疑問を持つてしまうことで、税金を払うことに抵抗が生まれるのだと思う。政府は、税金を減らす前に税金を集める目的を見ることが不満を生まずに政治を行う方法だと思う。政府はもう少し国民のことを想つて活動してほしい。

税金は国の防衛のための防衛費、小中学生の教科書類などにも使われている。このようないい、あまり知られていない税金の使い方などを調べてみると税金への考えが変わるかもしれない。政府も税金の使い道の見える化や税金を減らしていく等の対策をもつとしてほしいが、僕たち国民も税金を払うメリットなど税金について調べてみて、税金に関心を持つことが大切だと思う。